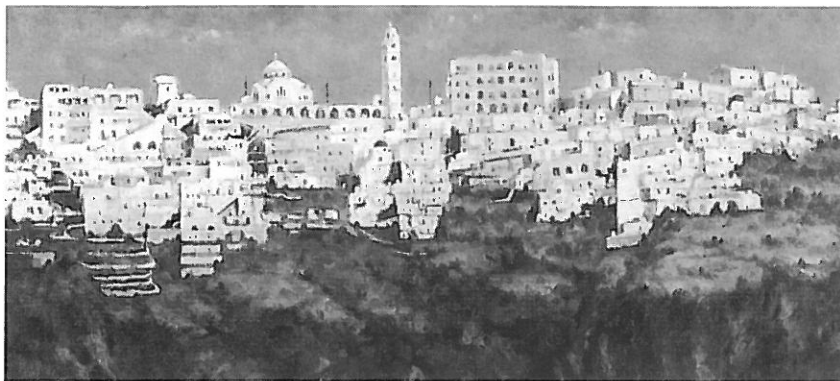


私の写生地

エーゲ海の島々を描く

会員 梅沢 民雄

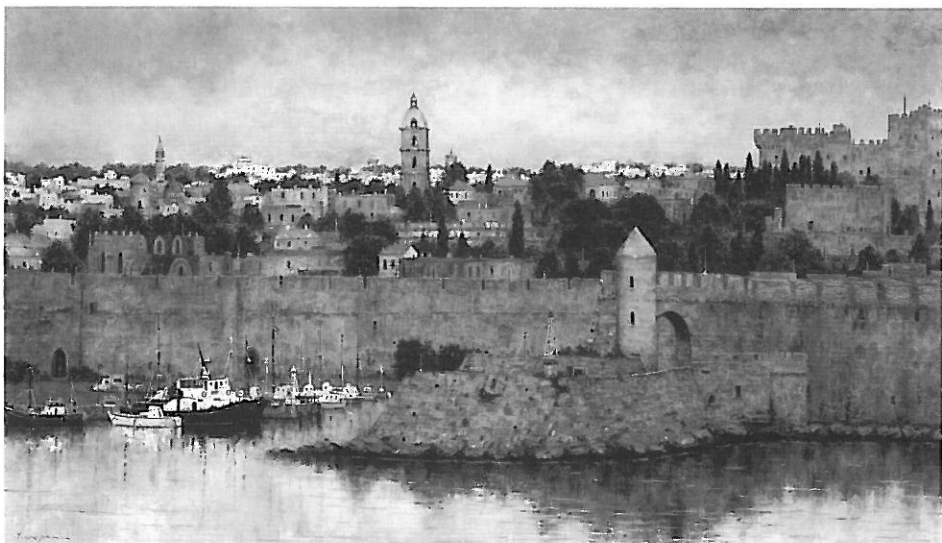


▲ サントリーニ (ギリシャ) 91×41cm

私は、第三十四回展の初出品から、十年程、故郷北海道にない湘南風景に感動し、各地のヨットハーバーをテーマにしました。それからヨーロッパ風景を求めて、二十年前から、ギリシャ、フランス、イタリア他、各地を描いています。

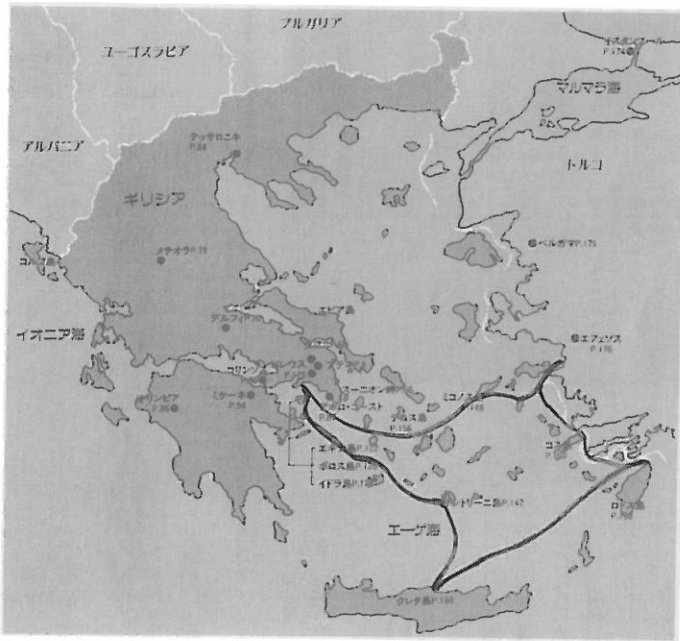
ギリシャ・エーゲ海風景を二十年前の感動をご案内致します。憧れの白い街、エーゲ海のコス島には、飛行機か船で行きますが、海側から各島を見たく、五日間のクルーズで、アテネから近いピレウス港から、早朝出港しました。エーゲ海の島々は、約三千といわれ、これらの島でギリシャ全土の面積の二十パーセントを占めています。古代には輝かしいエーゲ文明を育み、現在は観光第一ですが、美しい風景を見せるエーゲ海。その歴史はさておき、感動の風景を求めて、昼頃ミコス島に着き、白くまぶしい建物風景に感動しました。島には大型の客船が接岸できないため、沖合いからテナーボートという小船で、島に上陸です。この島はエーゲ海では、リゾート地として、世界中からの多くの人が訪れます。真っ白な家や風車小屋が有名です。五

六時間の滞在時間ですから、まず島の丘からカメラで、次に風車の丘へと回り、二〜三時間で元の港に戻り、残りの時間で、もう一度絵になるポイントをと、スケッチしてから、白い街を散歩し、忙しい時間ですが、満足の初日でした。夜ミコスを出発、早朝二日目のパトモス島へ。ここはキリスト教の聖地です。午後にはトルコのクシヤダスに寄港し、エフエソスの遺跡観光をし、オリエンタルムードを感じて、三日目の早朝ロードス港に着きます。目がさめる最高風景との出合いです。船が夜が明け、うす暗い中に、中世のたたずまいの残る城壁に囲まれた風景に感動。夜明けのロードスを八〇F、一〇〇F、そして二年前には一二〇Pにも描き、今でもその感動が甦ります。他にバスで六十分のリンドスも良かったです。



▲ ロードス P120

四日目はエーゲ海最大のクレタ島、ヨーロッパ最古のミノア文明を育んだ島です。滞在時間が短いので、港近くをスケッチし、午後には、火山の島サントリーニへ、島の三分の二が海に沈んで、幻の



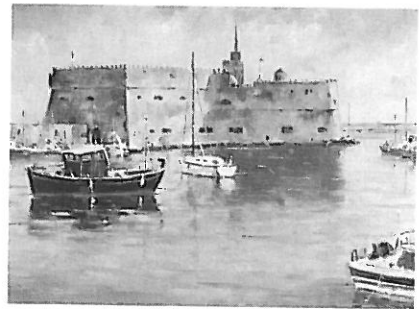
大陸アトランテイス伝説の島です。船から見た赤茶色の断崖と白い街並を八〇F「エーゲ海の島」を描きました。船は夕方サントリーニと別れ、早朝ビレウス港に着き、クルーズ船の旅は終わりますが、各島での滞在時間は忙しく感じますが、船での食事は朝、昼はバイキングで、夜はフルコースの夕食後ショー、プール、カジノ、バーなど楽しめて少し贅沢取材でした。



▲港 (ミコノス) P 10



▲エーゲ海の島 F 80



▲クレタ島 P 12



▲ミコノスの海 P 10